

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

記述式(25)、選択式(18)、論述式(1問/200字以内)

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

難易(易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

大問数は昨年度と同じ4題。解答数は44で、昨年度から2増えた。昨年度に比べ、記述式の解答数が9増え、選択式の解答数が6減り、論述式の設定問が1減ったが、字数は100字から200字に増えた。

出題の特徴や昨年との変更点

ここ数年は、政治分野の大問が2題、経済分野の大問が2題という傾向が定着しており、100字~200字程度の論述問題が出題されている。

その他トピックス

需要曲線と供給曲線に関連する計算問題が多数出題された。

外国人労働者の時事的事項に関する大問が出題された。

<大問分析>

| 番号 | 出題形式 | 出題分野・テーマ | コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど) | 難易度 |
|-----|----------------|------------------|--|-----|
| I | 記述 選択 論述 | 【政治分野】 表現の自由 | 表現の自由に関する知識を問う設問を中心とした構成。全体的に基本事項が問われている。問5では最高裁判所の判決に関する細かい知識が問われている。問6の同性パートナーシップ制度に関する論述問題は、設問の指示に従って答えてゆけばよいが、制度について一定の知識が必要である。 | やや易 |
| II | 記述 選択 | 【政治分野】 選挙制度 | 選挙制度に関する知識を問う設問を中心とした構成。全体的に基本事項が問われている。問5のドント式に基づいて各党の獲得議席数を計算する問題は、典型的な問題であり解答に困難はない。 | 易 |
| III | 記述 選択 | 【経済分野】 市場経済 | 需要曲線と供給曲線を用いて市場機構の理解を問う設問を中心とした構成。問4・問5(E)・問6(F)は、応用問題であり、とまどった受験生が多かったと思われる。 | 標準 |
| IV | 記述 選択 | 【経済分野】 外国人労働者 | 日本における外国人労働者に関する知識を問う設問を中心とした構成。技能実習制度、育成就労制度、入管法に関する時事的事項が問われている。問1のB・C及び問7は、特定技能の中身について細かい知識が問われており、問2は、監理団体や外国人技能実習機構についての細かい知識が問われている。 | 標準 |

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

近年の出題は基本事項が中心となっているので、教科書や用語集の基本事項を正確に押さえておくことが必要である。政治分野については日本国憲法に関する出題が中心となっているので、最高裁判所の判例も含めてこの分野の重要事項について確実に押さえておこう。また、経済分野の問題については、理解を踏まえた知識の整理が必要である。さらに、本学部では、時事問題も出題されるので、日頃からニュースについて興味を持ち、関連する知識を整理しておこう。なお、100字から200字程度の論述問題が出題されるので、他大学で出題された論述問題を解くなどして、論述問題の解き方を身につけておきたい。